

令和7年度第2回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和8年2月18日（水）午後1時30分～3時30分
2. 開催場所 京丹後市大宮庁舎 4階 第2・3会議室
3. 出席者氏名
 - (1) 審議会委員
田中会長、松本副会長、甲斐委員、櫛田委員、近藤委員、竹内委員、谷口委員、宮北委員
※ 欠席1名（井上委員）
 - (2) アドバイザー
藤野一夫氏
 - (3) 事務局
教育長 松本明彦
教育次長 川村義輝
生涯学習課 課長 松本優、課長補佐 橋本将彦、主任 寺島千絵、主任 野村拓矢、
主事 川口航平
4. 内容
別紙（会議次第）のとおり
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人 0人

会議録

松本課長 委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。
ございます。

進行を務めさせていただきます、京丹後市教育委員会生涯学習課長の松本と申します。よろしくお願いいいたします。昨年10月に前委員の任期が満了したことに伴い、新たに9名の皆様に文化芸術振興審議会の委員として委嘱させていただきました。本日が新メンバーで開催する初めての審議会となります。どうぞよろしくお願いいいたします。

今回、委員の皆様にお世話になる任期は、令和8年1月1日から令和9年12月31日までとなっております。本来でありましたら各委員に委嘱状を交付させていただくべきところではございますが、時間の都合上、机上交付とさせていただきますので、ご了承ください。

それでは最初に、松本教育長よりご挨拶を申し上げます。

教育長 皆さんこんにちは。令和7年度第2回京丹後市文化芸術振興審議会を開催しましたところ、ご多忙の中、多くの委員様にご出席いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、本年度、京丹後市は大雪となりました。1月中旬までは、ここから見えます大宮中学校のグラウンドでも子供たちが外で部活動をするぐらい良い天気でしたが、一転して大雪になりました。今日は駐車場にお車を駐車していただくことも大変だったのではないかなと

思います。まだ雪が多く残る状況ではありますが、学校教育、社会教育も雪には負けず、確実な取り組みを進めているところでございます。

さて、事務局からもありましたように、新たに委嘱させていただいた委員が半数を超えるということで、フレッシュな体制での審議会となります。新たに委嘱された委員の皆様には、新たな視点や自分の持つおられる分野の専門性を活かしていただきながら、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、この審議会については委員の皆さまから「何をする審議会なのか」と聞かれることがあります。資料の中にもありますが、京丹後市は文化芸術振興計画を策定しておりますので、その計画に沿って事業が実施されているかを分析評価いただくことが大きな役割となっております。委員の皆さまには、専門分野や関心を持たれている分野を中心にお話いただくこととなりますけれども、そうした役割があるということをご理解いただけたらと思います。

また、京丹後市は昨年の議会で、都市拠点公共施設の土地購入に関する議案が残念ながら否決されたということで、現在、方向性が見えない状況になっております。そのような状況ではありますが、社会教育に関わることとして、図書館においても「より良い図書館のあり方について」図書館長から諮問させていただき、2月5日に図書館協議会の会長から答申をいただいたところであります。皆様には文化芸術に大きく関わりのある都市拠点公共施設についても、ご意見をいただきたいと思っています。教育委員会としては、図書館協議会の思いや市民の思いを踏まえて、何とか計画を進めていきたいと思っていますので、皆様にもご理解いただけたらと思います。併せて、2月21日土曜日には、図書館とまちづくりに関する講演会を市が開催しますので、もしお時間の許す委員がいらっしゃいましたら、ご参加いただきたいと思っています。

本日は、本年度実施した文化芸術事業の概要や、文化芸術振興計画の見直しについても説明させていただきますので、皆様にご意見をいただければと思っています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

～委員・アドバイザー自己紹介～

事務局 ありがとうございます。続きまして、事務局職員についても自己紹介をさせていただきます。

～事務局職員自己紹介～

事務局 ありがとうございます。本日の審議会につきましては、1名の委員から欠席のご連絡をいただいております。委員9名のうち8名の委員にご出席いただいておりますので、定足数を満たしていることを報告させていただきます。

それでは最初に、正副会長の選出に移らせていただきたいと思っています。審議会条例の規定では、会長、副会長は、委員の互選で決めるということになっております。どなたか立候補される方はおられますか。

おられないようなので、事務局からご提案させていただきたいと思っています。

会長に一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部長の田中様、副会長に京丹後市文化協会会長の松本様をお願いしたくと思いますが、よろしいでしょうか。

～拍手～

ありがとうございます。それでは、会長としまして田中様、副会長として松本様、よろしくをお願いいたします。それでは田中会長と松本副会長は、会長席、副会長席への移動をよろしくをお願いいたします。

～会長・副会長席移動～

席のご移動ありがとうございます。それでは就任早々ではありますが、田中会長からご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくをお願いいたします。

田中会長

失礼いたします。会長を指名いただきましてありがとうございます。私は1つも芸術に秀でてはおりませんが、素晴らしいフレッシュなエキスパートの皆さまと、藤野アドバイザーがおられますので、明るく前に進むことができるような気持ちがしております。

生涯学習課の皆さんはいつも色々なところで、お休みの日も、大変なお役目をしておられるところをお見かけしております。ご苦労さまです。

本日、新しいメンバーを迎えての審議会となるので、新しい動きになるのかなと思っておりますが、松本副会長がエキスパートでおられますので安心しております。私自身は大変未熟ではありますが、和やかに、いい雰囲気、京丹後を盛り上げていけたらいいかなと思っておりますので、忌憚のないご意見と楽しい議事進行にご協力をお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。この会議は、公開で開催しております。現在傍聴者は無しということになっております。また、この会議は会議録を作成するために録音させていただいております。ご発言の際はマイクをご使用いただきますようお願いいたします。

次に資料の確認をさせていただきたいと思っております。

資料No.1 としまして、京丹後市文化芸術振興審議会委員名簿を配布しております。次に資料No.2 京丹後市文化芸術事業について、資料No.3 令和7年度事業概要および実績、資料No.4 文化芸術事業視察評価シート、資料No.5 事業案内チラシ・写真資料、資料No.6 都市拠点公共施設整備基本計画について、その他としまして、京丹後アートフェスティバルのアートマップと、京丹後市文化芸術振興計画の冊子等を配布しております。

以上、本日配付させていただいた資料でございます。配付漏れ等ありましたら、お申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、ここからは田中会長に議事進行をお願いしたいと思います。田中会長よろしくをお願いいたします。

田中会長

それでは議事に入らせていただきます。次第の議事(1)文化芸術振興審議会について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

～事務局説明～

田中会長

ただいまの事務局からの説明について、ご質問がございましたらお願いいたします。無いようでしたら、議事(2)令和7年度事業概要について、引き続き説明をお願いします。

事務局

～事務局説明～

田中会長

ありがとうございます。令和7年度の事業報告がありましたが、皆さんご質問やご意見が

ありましたらお願いできますか。実際に事業に関わられた委員もおられますし、本日から参加の委員もおられますので、ご質問なりご意見なり何でも結構です。

委員 様々な、これだけ多くの事業を取りまとめられたのは、大変だったろうなと思います。1つとても興味があってお聞きしたいのが、おとまち響プロジェクトで、「まちかどピアノを大宮ふれあい工房に移動させたことで利用者が増えた」と説明がありましたが、アクセスがよかったのか、それとも料金の話なのか、何か使う条件が変わったのか、具体的にどのような理由で利用者が増えたのでしょうか。

事務局 まちかどピアノは、もともと京都府丹後文化会館のホワイエに設置させていただいておりました。丹後文化会館はイベントのある土日以外は一般利用がしにくい施設となっておりまして、ホワイエに設置されいながら、平日に気軽に行って利用するということが難しい場所でした。また、土日に関しては、イベントがあるとホールとホワイエをセットで貸し切られるのでホワイエのピアノが使えず、設置してありながら自由に使うことが難しいという環境上の問題がありました。

また、「大宮ふれあい工房にまちかどピアノがあればぜひ使いたい」という市民のお声もありましたし、生涯学習課としても、大宮ふれあい工房を文化拠点として活用したいという思いがあったので、今年度に移設させていただきました。

大宮ふれあい工房は今年度から休館日が増えたので利用日が限られるのですが、もともとそこにあれば利用したいと思われていた方もいらっしゃるし、利用された方の口コミで、利用者が増えております。

委員 ありがとうございます。利用者に使いやすい形に近づいたということでしょうか。

事務局 はい。そのように考えております。

アドバイザー おとまち響プロジェクトの貸し出しピアノを利用したイベントのチラシを見ていたのですが、この開催スキームはどうなっていますか。生涯学習課はお金を出さずに、ピアノの貸し出しで協力しているという形ですよね。京丹後市韓哲・まちづくり夢基金事業は別の会計ですか。京丹後市の基金ですか。または外部資金ですか。

事務局 令和7年度に貸し出しピアノを利用して行われた「親子で楽しむコンサート」は、生涯学習課の主催事業ではありません。市民の方が主催して行うイベントで、ピアノを貸してくださいという申請があったので、閉校となった学校のピアノを、おとまち響プロジェクトの貸し出しピアノ事業として使っていただいたものです。

京丹後市韓哲・まちづくり夢基金は京丹後市が管理する基金で、毎年事業を公募し採択されれば補助金が出るというものなので、イベント主催者がそちらを活用されたということです。

アドバイザー わかりました。この手の親子コンサートはとても需要があり、その上、無料なので、1回きりで終わってしまうのではなく、いろんな場所で開催していただきたいなと思いました。

事務局 今回は韓哲・まちづくり夢基金を使ってピアノを移送されたということですが、貸し出しピアノ自体はご自身で運搬費を出していただかなくてはならないので、その部分のハードルが少し高いという面があります。また、補助金を使わずに各公民館等のピアノがある場所で、そういった親子コンサートを常日頃されている方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれま

せん。

事務局

京丹後市韓哲・まちづくり夢基金について補足させていただきます。パチンコホールを運営するマルハンという会社が京丹後の地で創業されたという縁があり、京丹後市に対して多額の寄付をいただいたという過去がございます。その寄付金を基金にしまして、市民が地域活性化や教育、子育て、にぎわいづくりの事業を行う際に補助金として交付しております。

毎年、市民団体等から補助金申請があり、審査して補助金交付するという仕組みがございますので、今、説明させていただいた事業は、その基金からの補助金を使って行われた事業ということでもあります。

アドバイザー

もう1点、質問です。この審議会と対をなす、文化芸術のまちづくり推進会議が現在どういう状態なのかということが気になっています。先ほどの報告では公式で3回、有志による非公式の会議が1回の計4回開催されているということですが、15人の委員の属性などの詳細が知りたいです。

それから、市の既存事業の改善策や新規事業の提案等を行っているということですが、推進母体になるということ言えば、理想としては推進会議のメンバーたちがリーダーシップを発揮し、何か新しいプロジェクトや事業を起こすようになるといいと思っています。市に対して「これをやって欲しい」、「こうして欲しい」と言っているだけでは、この審議会と同じ役割になってしまうので、その部分の区別が必要だと思います。

情報発信だけならそれほど予算はかからないと思いますけれども、やはり事業やプロジェクトを行うとなると予算配分も必要になるので、そのスキームをどう育てていくのかというところが気になる点です。

事務局

ありがとうございます。文化芸術のまちづくり推進会議につきましては、ちょうど1月末に1期目の2年任期を終えたところです。委員は15名おまして、丹後地域で文化芸術活動をされている市民の方や、関係団体の職員の方、そして市の職員を含んだ15名で構成されております。属性として、男女比については、男性が約6割、女性が約4割のおよそ半々になっております。年代につきましては、1期目の方は20代から70代ぐらいまでとなっております。推進会議の1期目の委員については、新たに組織された会議体ということもあり、生涯学習課からお声がけをさせていただきました。舞台の活動をされている方もいれば、デザインのお仕事をされている方もいます。なるべくそれぞれのジャンルや専門性から満遍なく構成できるように組織したものです。

初めてのメンバーでしたので、最初は交流を促すという観点から、まずは自分たちを知るためにも、市内の文化芸術事業はどういったものが行われているのか話し合っただけ知る機会をなるべく長くとりました。

また、感覚としては企画やイベントをされたい方が多かったのですが、どうしても皆さんの専門性がバラバラなので、何か1つの事業に収束させることが難しいように感じました。なので、まずは皆さんに共通する課題である情報発信について、何か提案をしませんかということで、この2年間、勉強会や会議を重ねてきたところです。

先ほど事務局からの情報発信に関する評価の説明で、情報がなかなか市民に届いていないと報告させていただきましたけれども、推進会議の委員さんも、自分の行うイベントの情報

がなかなか届けたい人に届かないという課題意識を持っておられました。

なので、その課題に対して何ができるのかという点を、会議の中で話し合ってきました。最近、試験的に運用を始めたこととして、文化芸術事業に関するチラシだけを置くラックを市内に2ヶ所、試験的に設置しました。来年度以降はその運用を試験的に重ねながら、情報発信についての改善案を提案していただくということを考えています。

アドバイザー 推進会議については、令和7年度予算が22万円弱となっていますが、これは委員の報酬ですか。

事務局 おっしゃる通りです。事業費をプールして置いておけないので、委員報酬と会議に係る消耗品費として、予算計上しております。

翌年度に何か事業を実施する場合は、秋ぐらいまでにその内容を固める必要があるのですが、そこに向けてのスケジュールで会議を行っています。

予算要求を行う必要があるのですが秋ぐらいまでに意見をまとめようと会議では説明してきましたが、なかなか最後まで意見がまとまらなかったため、令和8年度に新規事業を行うための予算要求は行っておりません。

アドバイザー わかりました。ありがとうございます。

田中会長 その他にご意見、ご質問がありましたらどうぞ。

委員 先程のまちかどピアノの話に戻るのですが、おとまち響プロジェクトの貸し出しピアノは、廃校にあったピアノを活用されているということなのですが、何台ぐらいあるのでしょうか。

事務局 貸し出しピアノは2台です。

委員 大宮ふれあい工房にあるのは、1台ということですね。他にも廃校が増えて、使われないピアノが出てくるのであれば、ピアノが無い他の公共施設に設置することできるのかなと思いました。ピアノの台数が今は2台かもしれないですが、そのように考えることができるかなと思います、聞いてみました。

事務局 ありがとうございます。実は、そういったお声を常日頃いただいているのですが、元々どういった経緯で学校にピアノが配置されたのかということも配慮する必要があります。例えば、寄贈で受けたものでしたら、やはりその寄贈者の思いなどもありますので、閉校になり使われなくなったので、それをすぐに移設ということは難しい状況です。

しかしながら、ピアノを利用したいというお声をいただいていることは、事務局としても受けとめております。

委員 ありがとうございます。大宮ふれあい工房の活用について感想ですが、今年度は生涯学習課の事業だけではなく、TANGO まるっば美術館も活用されていましたが、利用者がとても増えている印象です。海の京都 DMO が公開している各施設の利用状況を見ると、前年度比、100%以上とあり、その成果が表れていると思っておりました。

田中会長 ありがとうございます。その他にございましたら。

委員 この場で2点伺いたいと思います。1点目に、先ほど教育長のご挨拶にもありましたけれども、図書館のあり方についてです。私も詳しく中身を承知していませんが、議会の結果、市の考える方針通りに進まなかったということは承知しています。一方で、計画を進めてい

くというお話もありましたので、こういう形で進めていくという方向性や、市民に説明する時期等、この審議会の場で皆さんにお伝えできることがありましたら、ぜひお知らせ願いたいと思います。

2点目として、ご本人がおられるので言える範囲で結構ですけれども、文化芸術振興計画には専門人材の配置について明記されております。配布された資料には、令和8年度以降の配置について「未定」という記述もありますが、方向性や方針など、この場で言える範囲で結構ですのでご説明いただけるとありがたいです。

文化芸術振興計画ができ、専門人材の配置ということが明記され、専門的な知見をお持ちの方に市の職員として来ていただいたことで、アートフェスティバル等、いろんな事業が芽を出し始めました。私も文化協会の会長を拝命していますけれども、私どものような市民団体とも連携を取っていただき、また、たくさんのアドバイス等もいただけたので大変ありがたかったと思っています。

この専門人材の配置について、この場で言える範囲で結構ですので、ご説明いただけると大変ありがたいと思い、このようなことを申し上げました。よろしくをお願いします。

事務局 ありがとうございます。まず1点目ですが、都市拠点公共施設整備基本計画や中央図書館整備については、この後の「次第3 その他」で、現状やこれまでの経過等をご説明させていただきたいと思います。

2点目の専門人材の配置の件ですけれども、現在の専門職員は、ふるさと創生職員として3年前に来ていただきまして、今年度が任期満了の年となっております。教育委員会としましては、引き続き基本計画に沿った形で専門人材が配置できるように、人事課や理事者にも要望しております。引き続き、配置できるよう努めていきたいと考えております。

委員 引き続きお願いいたします。

田中会長 それでは、その他にご質問が無ければ、次第の「3 その他」について事務局からご説明いただきます。

事務局 ～事務局説明～

田中会長 ご説明ありがとうございます。そうしましたら、事務局からご説明がありましたが、皆さんからご質問やご意見があれば、この機会にぜひご発声いただければと思います。

委員 部外者と申しますか、外から来てよくわかっていない状況もあり、都市拠点公共施設整備基本計画については紆余曲折あるのだなということを初めて知りました。

それはさておき、私、実は鳥取市で社会教育委員も務めております。文化芸術は社会教育と密接ですが、京丹後市はどちらも生涯学習課が所管されているということで、社会教育委員会との関係を確認させていただきたいです。というのも、京丹後市文化芸術振興計画には「京丹後市教育振興基本計画の実施計画の一つとして位置付ける」との記載があります。教育振興基本計画や他の計画と、この文化芸術振興計画を、どう整合をとっていかうとされているのか、或いは、どれぐらい参照されたのかというところをお聞きして、来年度に臨みたいと思っています。

田中会長 いかがでしょうか。事務局からお願いできますか。

教育長 現在の文化芸術振興計画は、以前の教育振興計画をベースに策定されております。昨年度

末に新たな教育振興計画を策定し、大幅に内容を変えておりますので、文化芸術振興計画の今度の見直しについては、そうした教育振興計画の変更を踏まえて、見直しをお願いすることになるのではないかなと思っています。

委員

ありがとうございます。教育振興計画の変更を踏まえ、文化芸術振興計画の見直しを行うということで理解できました。

実は本日、審議会に来る前に丹後文化会館の見学に行きました。最初、文化会館がわからずお隣の峰山地域公民館に入ってしまい、地域公民館の上にある図書室も見てきました。

先程ご説明のあった都市拠点公共施設については、公民館的な機能の施設だなという印象を受けたので、既存の社会教育施設との統廃合を含めた話もしていかないといけないのかなと感じたところです。併せて、先程は施設や建物の話でしたが、社会教育の専門人材、例えば公民館主事とか司書、学芸員、社会教育主事、社会教育士などの制度もうまく活用していくと、職能が似ていて、やっていることが同じということもあるので、一体で考えると良いと思います。しかも生涯学習課が担当されているということなので、資源が限られている中であっても一体的に取り組むことで、文化の方も盛り上がるような前向きな話に繋がるのではないかなと思い、ご意見させていただきました。

事務局

ありがとうございます。今後の参考にさせていただきたいと思います。委員が行かれた峰山地域公民館の3階に峰山図書館がありまして、本市のメインになる図書館です。もう1つ網野町にあみの図書館があり、そのほか4つの分室がありまして、2館4室体制で図書館行政を行っております。

峰山は丘の上のような立地状況でありますし、大宮図書室、弥栄図書室は非常に狭いという課題がありながら、これまで改善できずにいたところ、今回都市拠点公共施設という複合施設整備の計画があったものです。中央図書館と子育て支援機能、文化芸術支援機能という3つの機能を併せ持った複合施設を基本計画の中で規定しております。委員が言われたように、都市拠点公共施設には、公民館としての要素も多分にあると考えておりますし、文化芸術支援機能については、色々な文化芸術活動をされている方に利用していただきたい機能です。先ほど申し上げましたように面積が少し小さくなったため、残念ながら現時点では、ホール機能は整備できない予定となっておりますが、委員からいただいたご意見を参考にさせていただき、今後検討していきたいと思います。ありがとうございます。

委員

建物の施設機能はもちろんです、やはり支援する人が必要だと思います。中央公民館、中央図書館という機能を持つのであれば、利用者をコーディネートするための支援者が必ず必要になると思います。新しい施設の運営体制においては、専門職を十分考える必要があるかと思いますが、併せて議論いただければと思います。

事務局

ありがとうございます。

委員

先ほどの図書館の件で、人口規模や経済状況の今後の推移を考えたときに、拠点統合していくことは、致し方ない部分はあるだろうなと思っています。うちの事業がまさにそれで、どうやって拠点統合していこうかと、とても考えています。今までの旧町毎に図書館があったほうが良いという意見もとてもわかるのですが、やはり持続可能な運営ということを考えてきたときには、一定の効率化を図っていくということは、まちとしては致し方ないところかな

と私は思っています。だからといって市民が何か我慢するというよりは、現在のテクノロジーを有効活用するという方向で考えることができればいいと思います。例えば、私も最近、本はKindle等で読みますので、電子書籍の貸し出しができるようになると、距離的な問題は無くなります。また、これだけ広い市なので、都市拠点施設1ヶ所のことだけを議論すればいいというものではなく、その域内交通も含めて様々な課題が絡み合っていると思います。

一方で拠点となりうる場所は、確かに必要だと私は思っております。町も企業もそうですが、拠点が細かく点在しているとやはり効率が悪くなり、人件費等の経費が嵩むので、結果的に、持続不可能なものになっていくと思います。なので、集約、効率化で拠点を整備する中で、他の周辺課題も一緒に議論して、方向性を示していくということが大事だと思います。

例えば域内交通についても、バスの本数が次々減っていったり、丹鉄なども利用し難くなった中で、Uberなども含めて民間の支え合い交通を利用できるかもしれません。それらをもっと市内全域で使えるようにするなどの議論が進めば、拠点集約されても行くことができるという希望が持てると思いますので、周辺の課題も一緒に議論が前に進んでいくと、より良いなと思いました。

事務局 ありがとうございます。

アドバイザー 都市拠点施設の中にホールができるといいなと思っていましたが、残念です。そのことは、まず一言申し上げたいと思ったのですが、今度、吉成信夫さんの講演会がありますよね。吉成さんとは同じ委員会で議論したりなど、よく知っています。明石市で本のまちづくりアドバイザーもなさっていますし、ご存じの方も多々と思いますけれども、ぎふメディアコスモスを大成功させた立役者ということで、大変脚光を浴びておられる方です。

面白いのは、吉成さんとは真逆の価値観で、今評価され注目を浴びているものとして「まちライブラリー」というものがあります。「まちライブラリー」は商標登録されているので検索すると幾らでもヒットすると思いますが、磯井さんという方が提唱者で、提唱して10年ぐらい経つのですが、全国に1000ヶ所以上の「まちライブラリー」ができています。

デジタルメディアの使用や経済効率性のための統廃合というのは、僕らはやむを得ないと諦めてしまうのですが、その発想を完全に逆手に取っている人です。

私は「文化的コモンズの形成」と長らく申し上げているのですが、ぎふメディアコスモスは、集中型タイプです。それはそれでいいのですが、やはり地域性が多様であったり、広がったりする場合に、どうしても格差が出てきてしまうという問題があります。その問題を解決するには、むしろ磯井さんが提唱して全国に1,000ヶ所以上ある「まちライブラリー」という発想と共存させていく必要があると思っています。「まちライブラリー」は、小さいところでは、この会議室の半分ぐらいのスペースでやっていますし、本の集め方も多様です。例えば、大学教員は本の処分が本当に大変で、学生に多く持って行ってもらったりすることもあります。そういった所から本を集めてくるということもあります。誰か1人職員を置くと大変ですが、雇用を兼業的に、例えば飲食業を行っている方に、一応管理だけは大変なことが多いです、地元の人たちの交流スペースになると、地元の人たちが自分たちの拠点として、常にみんなが集まってくるような、生き生きとした場になってきます。読

書会も重要ですが、それ以外にも新しい発想がそこから生まれてくる場です。新しいコミュニティスペースとして「まちライブラリー」は全国各地で現在、機能しています。中央集中型の拠点施設としての新しい図書館と同時に、分散型commonsとしての「まちライブラリー」という発想を共存させるような1つのイメージやコンセプトを立てていくといいのではないかなと思います。

そして、そういうイメージやコンセプトを議論する場をどこに作ればいいのかというのは、例えばこの審議会の中で分科会を作るという手もありますが、他の委員会で議論の場を設け、この審議会の代表が参加し議論をまとめていくということが妥当かと思います。

田中会長

ありがとうございます。「まちライブラリー」の話が出ましたが、峰山町のまちまち案内所は小さな図書館としての役割も果たしているかと思います。本屋さんがどんどん無くなっているの、活字をばらばらと読めたり、本の話ができたりする場所は本当に重要だと思います。私もこの審議会の代表として、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議に出させていただいていて、いろいろと意見を申し上げています。

私は峰山高校の運営協議会にも入らせていただいています。そこでの話で、私どもが経営するホテルのフリースペースに、この頃、高校生が集まるというお話がありました。昨年の秋頃から顕著になりまして、Wi-Fiが整備されているからなのかなと思っています。峰山高校も一生懸命、早朝から遅くまで勉強する場所を作っておられますし、他に高校生が集まる場所としてrootsというところもあります。

勉強ができる環境というのは昔とは違ってきています。特に今はWi-Fiが整備されていないといけないという点は大きな違いだと思います。

ホテルの上の階で宴会を行っているような時でも、下の階のフリースペースに多くの高校生がいるのという場面を何度も見ております。

現在、都市拠点施設や中央図書館の整備の話がありますが、子供が勉強する場所や居場所を作るというのは、大人の責任だと思います。今の状況で子供達が将来京丹後市に戻ってくるのだろうかということを私はとても不安に思っております。このお話は高校でも校長先生に直接させていただき、都市拠点公共施設の検討会議でもお話させていただきました。

京丹後市から宮津天橋高校に子どもが電車を通っているというお母さんから、宮津天橋高校の生徒たちは、学校が終わった後に、ミップルの中にある宮津市立図書館で集中して勉強していると聞きました。受験生のお母さんでしたけれども、日曜日にも宮津市立図書館に行っていると聞きました。その方は、京丹後市に都市拠点公共施設や中央図書館を建設してもらいたいと署名もされたそうですが、議会で否決となり、親として悲しかったということをおっしゃっていました。

そういったお子さんの話を聞いたり、峰山高校の生徒がホテルのフリースペースで勉強する様子を見ていると、子ども達の居場所を何とか作らないといけないと思います。

高校生たちのその姿を見ていると、小さくてもいいので何とか、まちまち案内所のように本棚が並んでいるところをもっとできるといいなと思います。

今の京丹後市には、子育て支援施設など子供を連れて行ける場所が無いので、そういう部

分も含め、社会教育も一緒に色々な方が協力して、何とか前に進めていただきたいという思いです。

小さいお子さんがおられる親御さんから、子育て支援は、京丹後市は手厚くやっていたというのを聞きますし、それから教育に関しても、小・中、一生懸命やっていたというのを聞きます。

峰山高校の校長先生にも、今度の吉成さんの講演会のチラシを教員さん向けに置いていただいて、参加していただけるよう私もお願いしております。いろんな話を混ぜて申し上げましたけれども、報告でございます。

皆さん、他にご意見はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、事務局にお返ししてよろしいでしょうか。お願いいたします。

事務局

議事進行お疲れ様でした。ありがとうございます。本日、新たな委員となって初回の審議会だったのですが、各委員から、多くの貴重なご意見をいただいたと考えております。

図書館につきましては、図書館協議会という場で具体的に検討させていただいておりますので、そちらの方にもご意見を共有させていただき、具体的に取り組みを進めていきたいと思っております。

以上をもちまして、令和7年度第2回京丹後市文化芸術振興審議会を閉会とさせていただきます。閉会にあたりまして、松本副会長からご挨拶をお願いしたいと思います。

松本副会長

それでは閉会ということで一言御礼も兼ねてご挨拶申し上げます。今回、メンバーが変わって初めての審議会ということで、新たに入ってくださいました皆さんとともに、私も田中会長を支えて、この審議会がより充実したものとなるよう一生懸命頑張りたいなと思っております。本日、皆さんのお手元に冊子の三坂神社墳墓群発掘未調査報告書があります。私はこれを絶賛しております。これは、京丹後アートフェスティバル2025の一環で、あるアーティストの方を中心に行ったワークショップの成果報告書です。いかにも行政が作った報告書のように見えますが、中を見ていただくと、とても行政の人が作るようなものでないことが分かるかと思っております。

こういった発想のできる方が、実は京丹後市にいて活躍しているということが、自分の喜びとしてありますし、この資料はとても面白かったです。しかし、残念な点は、もっと大勢の市民にこれを見て欲しかったということです。

私も実際に大宮ふれあい工房で展示している時に観に行きましたが、こういった発想には、おそらく行政の職員ではアプローチできません。そして、我々民間の、普通の仕事をしている人にもアプローチできません。

三坂神社墳墓群発掘未調査というこの「未」という漢字を一文字入れただけで、世の中がこんなに変わるのかといった辺りに、私はとても感動しました。こういったものも含めて、文化や芸術の力で、まちをもっと元気にしたいという、そういう思いを持っています。ぜひ皆さんとそれを共有できれば、文化芸術振興計画を作って、委員の皆様が集まっていた意義もより深まっていくかなと思っております。この審議会の任期は2年間ということですが、皆さんには、今まで以上に文化芸術に対するアンテナを高くしていただいて、それをまたこの場でご意見いただくという形でお世話になりたいと思っております。丹後が変わり始め

たなと市民さんに感じていただけるきっかけになればいいなと思っていますし、私も一生懸命何とか会長を支えていますので、皆さんもどうぞよろしくをお願いします。本日はありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。副会長に触れていただいた先ほどの報告書ですけれども、京丹後アートフェスティバル 2025 の「知るプログラム」の中で、金井悠さんという京丹後在住のアーティストの方と行ったワークショップのものです。大宮ふれあい工房が位置するあたりは三坂という地区なんですけど、三坂で出土したものを想像して、架空の資料館をつくるという設定でワークショップを行いました。実際に文化財保存活用課の職員から三坂周辺のレクチャーを受けた上で、どういったものが出土したのかということに参加者自身が想像し、それを陶芸作品として作りました。最後には自分でキャプションを作り、こういう使われ方をしていた出土物が三坂地区で発掘されたというコンセプトの展覧会と、カタログを一緒に作ることがセットになったワークショップでしたので、その成果物になります。

大宮ふれあい工房に展示していた作品については、本当の出土物だと思って観ておられる方もおられました。最後の辺りで、キャプションに未来のことを書かれている方がお1人おられたので、「あれ、なんか時代設定がおかしくないですか」という話になり、「実は架空だ」ということに気づかれて、ほほ笑みながら帰っていかれるというような展覧会でした。

松本副会長

ありがとうございます。

事務局

以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。